

福井が好きだから「伝えたい・残したい」、福井の宝もの。

あーとが
つむぐ
ふくしの
みらい

【特集】

幸せをデザイン



No.24
2016

組
紙
SOCIAL PAPER KUMIBITO

つむぐ幸せ



アートを使って福祉をやわらかくしていく

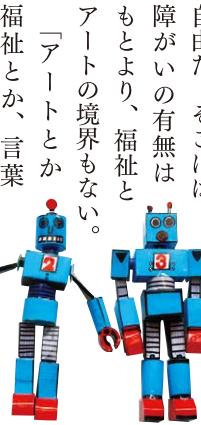


母親の仕事の関係や、身近にろう者がいたことで、10代の頃から自然と福祉ボランティアに携わってきた「つむぐあーとぶろじえくと」代表の東野佳奈さん。社会人になってから専門学校でデザインを学び、卒業制作として「福祉とアート」を題材

にした「つむぐアート展」を企画した。福祉先進県の滋賀や京都では、社会に広く開かれている福祉的な活動が、福井においては、それが見えないところ、むしろ隠す方向にあつた。「どうしてこう閉鎖的なんだろう」とカッコ良く見せられる東野さん。今後は、「できあがった作品を選ぶところからだけではなく、一緒に創るところから関わりたい」と福祉の現場にも息をするように入っていく。「私はアートのプロでも、福祉のプロでもありません」と言う彼女の考えはとてもやわらかく自由だ。そこには障がいの有無はもとより、福祉とアートの境界もない。

「アート・ブリュット」とは、日本語では「生の芸術」と訳され、専門的な美術教育を受けていない独学者が自発的に創作した絵画や造形作品を指す。しかし、日本では福祉施設で生まれた作品が多い為、「障がい者アート」と誤解されがちだ。

本語では「生の芸術」と訳され、専門的な美術教育を受けていない独学者が自発的に創作した絵画や造形作品を指す。しかし、日本では福祉施設で生まれた作品が多い為、「障がい者アート」と誤解されがちだ。



「アートとか、福祉とか、言葉だと凝り固まつてみえるけど、お互いとっても相性が良いもの。だって両方とも人生を明るくしてくれるんですよ」。

福祉とアートの可能性を、福井で広げる

2014年に企画した「つむぐアート展」からはじまった「TSUMUGU ART PROJECT」。

「作品や展示を通じて人と出逢うこと、コミュニケーションが生まれることがなにより嬉しい」。そう語る彼女が思い描く「福祉×アート×福井」の未来とは?





作品を見てもらえて、
交流が生まれることが素敵



つむぐアート展

東野さんが初めて企画したアート展。
「いろんな人に話を聞くことができ、ここから始まった人とのつながりを大事にしたい。」



ORIGIN ~はじまりの鼓動~

「アール・ブリュット作品の魅力を福井に紹介したい」という思いで企画した「ORIGIN」展。滋賀のボーダレス・アートミュージアム NO-MA 収蔵の 6 人の作品 60 点を並べた。

主催：福井大学
共催：NPO 法人 E&C ギャラリー
事業：福井大学 アートマネジメント人材育成講座



「とらいと」での制作

「グループホーム（共同生活援助事業所）とらいと」で文化祭に展示する作品づくりを企画。高校時代の同級生、山本美里さん（越前町社協）と展示作品を選定する。



TSUMUGU ART PROJECT/ 東野佳奈

福井県鯖江市生まれ。
東京造形大学映画専攻卒。在学中に舞台や歌舞伎座、全国の美術館やギャラリーを見て回るなかで「アール・ブリュット」の作品と出会う。大学卒業後Uターンし、福井デザイン専門学校へ社会人入学。2014年秋に現在の活動を開始し、数々のアート展のほか、越前町で友人とトークイベントを開催するなど、福祉とアートをテーマにゆっくり活動をしている。

取材……宮本 隆行 Art Director ……三嶋 良晴

撮影……高橋 正勝

写真提供……東野 佳奈

制作……牧田 有加

組人についてのお問い合わせ・バックナンバーは
発行元 大一印刷株式会社

〒910-2142 福井県福井市前波町17-6-1

TEL.0776-41-3741 FAX.0776-41-2442

<http://bigone-p.com/kumibito/>

企画制作・編集

コミュニティサポート5〇プロジェクト

